
7月8日】ラトビアのユース合唱団「カメール」が来日、無料公演

(2016/07/08 金曜日 19:54:38 JST) - 投稿者 webmaster - 最終更新日 (2016/07/08 金曜日 20:14:45 JST)

第32回宝塚国際室内合唱コンクールのルネサンス・バロック部門に出演するために来日するラトビアのユース合唱団「カメール」が、日本福音ルーテル大阪教会の厚意でコンクールの2日前に無料演奏会を開きます。東京での公演も会場を確保していましたが、日程の関係で不可能となりコンクール参加以外は唯一の公演となります。関西在住の方、是非、質の高い演奏をお聴きください。もちろん、コンクールの最有力優勝候補でしょう。参考までにチラシの表裏を掲載します。7月21日(木)19時開演。会場の日本福音ルーテル大阪教会は地下鉄谷町線「谷町4丁目」1B出口から徒歩1分です。【HP編集室 徳田浩】

Youth choir "Kamer..."

カメール合唱団 コンサート

入場
無料

指揮者 ヤニス・リアピンシ

2016年7月21日[木]19時開演(18:30開場)
日本福音ルーテル大阪教会

♪プロフィール♪

ユース合唱団「カメール」 *Youth choir "Kamēr..."*

ユース合唱団「カメール」は合唱が文化に深く根付いているラトビア共和国において1990年指揮者マーリス・シルマイス氏により創設され、2012年よりヤニス・リアピンシ氏により率いられています。

1999年ドイツ国際マルクトオーバードルフ室内合唱コンクールをはじめ2004年、2013年ヨーロピアン・グランプリにてチャンピオンになり、2006年には中国廈門にて開催された世界合唱オリンピックで金メダルを受賞。ラトビア国内でも2度最優秀音楽賞を受賞し、4度の国内チャンピオンにもなるなど、創設以来25年間、独自のパフォーマンススタイルを求めて進化し続け、特別な音をつくりあげてきました。

合唱団の名前「カメール」とは、英語で“While”（～の間）という意味で、若い力とその可能性にけるという想いがこめられています。彼らの特徴である情感溢れた歌声と、質の高い歌声のパフォーマンスは世界中を駆け巡り、多くの人々を魅了しています。

ユース合唱団「カメール」ホームページ <http://www.kamer.lv/>

指揮者ヤニス・リアピンシ *Conductor Jānis Liepiņš*

合唱団の常任指揮者で芸術監督。2006年より副指揮者として合唱団と活動を始め、2012年より常任指揮者に就任。これまで Conducting of the Riga Dome choir school 指揮科、Jāzeps Vītols Latvian Academy of Music において合唱及びオーケストラの指揮法を学び、2つの学士号を取得。その後マスタークラスにて Colin Metters 氏、ベルリン留学時は Lutz Köhler 氏の元で学び、研鑽を積む。この若い指揮者リアピンシ氏指導のもと、カメールは2012年バルトク・ペーラ国際合唱コンクールにて優勝。翌年のヨーロピアン・グランプリへ招待され、再び優勝を果たす。

この功績と大成功を収めたラトビア国立交響楽団との共演デビューが称えられ、ラトビア国内において2013年グレートミュージックアワード新人賞を受賞。2014年よりラトビア国立歌劇場の指揮者としても活躍している。

♪プログラム♪

ベルト／今こそ主よ、僕を去らせたまわん *Arvo Pärt / Nunc dimittis*

パーセル／主よ、わが祈りを聞きたまえ *Henry Purcell / Hear My Prayer, O Lord*

バッハ／すべての異教徒よ、主をたたえよ *Johann Sebastian Bach / Lobet den Herrn, alle Heiden*

ブラームス／我の内に清い心を造りたまえ *Johannes Brahms / Schaffe in mir, Gott, ein rein Herz*

エセンヴァルズ／ノーザンライツ(ラトビア民謡) *Ēriks Ešenvalds / Northern Lights* ほか

♪主催者より♪

今回、ユース合唱団「カメール」は第32回宝塚国際室内合唱コンクールのルネサンス・バロック部門へ出場するために来日されました。このコンクールは、音楽を通じた国際交流の推進に資する目的で、1984年から開催している歴史ある合唱の祭典です。

ラトビアはルター派（キリスト教プロテスタント）の教会も多く、この度は多くの方々のご厚意により、四條畷市にある「るうてるホーム（社会福祉施設）」と当教会でのコンサートが実現しました。

2017年は宗教改革500年を迎えるラトビア（ルター派）教会にとっても、記念すべき機会

